

自分を守る！

ビジネスにつなげる！

社会貢献をする！

1.

2. サプライ関連事業者

3.

4.

12 非常用電源・燃料等を確保している例

事例番号 058

取材・中継用車両用燃料を自動車学校で備蓄

■取組主体 朝日放送株式会社
■業種 情報通信業

■取組の実施地域 大阪府(八尾市、堺市)、和歌山県
■取組関連 URL <http://www.ashahi.co.jp/>

取組の概要

石油卸売業者と契約し、自動車学校等に車両用燃料を備蓄

- 朝日放送株式会社では、自社の取材・中継用車両の備蓄燃料として、ガソリン 2 キロリットルを大阪府八尾市の自動車学校に、ガソリン 1 キロリットルを和歌山市の自動車学校に、軽油 2 キロリットルを大阪府堺市の業者支店にそれぞれ確保し、災害時の給油体制についても契約を結んだ。
- 同社が購入したガソリンや軽油は、石油卸売業者が別途自動車学校等と契約し、自動車学校等に保管・備蓄するというスキームとしている。



【非常時にも中継車への給油が可能に】

取組の特徴

自動車学校と連携することで、新鮮なガソリンを給油可能に

- ガソリンは消防法及びその下位法令で危険物として指定されており、その扱いには免許を要する。また、大量に保管する場合は危険物取扱所としての指定を受ける必要があるため、自社での大量備蓄は困難であった。
- 備蓄燃料は使わなければ劣化するため、定期的な入れ替えが必要である。そこで、燃料を常時消費している自動車学校に注目し、そこへのガソリンの備蓄を行った。同社が確保している燃料は常に新しいものが備蓄されていることになり、劣化の心配がなく、また、一般のガソリンスタンドとは異なり、災害時には独占的に給油することができる。
- ガソリン備蓄に適した場所は限られるものの、大阪だけでなく、和歌山にも備蓄場所を確保した。

石油卸売事業者の提案からスタート

- この取組は、非常用発電機用燃料の面で関わりがあった卸売事業者からの提案でスタートした。
- 卸売事業者は、常時一定量の燃料を扱っている所として自動車学校に着目した。一方、広い面積を必要とする自動車学校は、川沿いや海岸沿い等の危険地域にあることも多い。また、備蓄可能な燃料は、自動車学校 1 校につき 1、2 社分となる。このような条件を踏まえつつ、卸売事業者では、備蓄場所として適切な災害時に被災する可能性が低い施設を選定し、提案を行っている。



【自動車学校での備蓄】



【有事の際は優先的に補給できる】

本社の事業継続に向けた取組も加速

- 同社では被災時の事業継続に向けて、本社屋上に非常用ガスタービン発電機2機を設置し、地下のタンクに重油90キロリットルを備蓄している。これにより、現状では全館で3日間の電力供給が可能である。また現在、重油タンクを増設し備蓄量を150キロリットルに増やし、5日間の連続運転を可能にする予定である。
- 停電が長期化した地域もみられた東日本大震災の例を踏まえると、3日間の稼働では不安が残るため、備蓄量の増加を図り、災害放送等の業務継続の確実性を高めている。

平時の活用

通常時の給油も可能

- 大規模災害時において、被災者などへ情報を提供し続けることは放送事業者の使命であり、そのための取材・中継は必須の活動である。取材・中継には車両が不可欠であり、そのための燃料をある程度確保しておくことは、放送局の強靱化に効果があると思われる。
- また、普段でも給油することは可能な仕組みとしており、場所や給油方法についての平時からの周知につなげている。

周囲の声

- 4年ほど前から非常用発電機の燃料を提供するサービスを行っていた。その顧客であった同社から「非常用発電機も大事だが、有事の際にはこちらが必要だ」と指摘されたのが取材・中継用車の燃料だった。放送という災害時に最も頼りにされる業界を支えることに意味を感じている。世の中の防災の機運の高まりもあり、放送業界以外にも通信業界・データセンターなどの関心も高い。(石油卸売事業者)